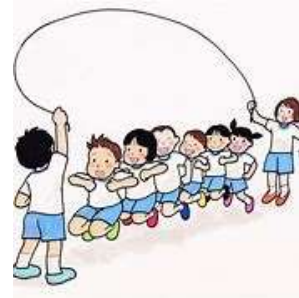




今年度は、コロナウイルス感染と熱中症の心配をしていた運動会でしたが、当日は、気温もそこまで高くなりず済み、第67回運動会を5月29日に無事実施することができました。緊急事態宣言下での運動会ということで、密の状態を作らないよう、生徒席をトラックの周囲いっぱい広げて、間隔を取りました。そのため、保護者の参観する場所の確保ができず、参観をご遠慮いただくことになってしまったことは残念でなりませんでしたが、おかげさまで、3学年そろっての運動会を行うことができました。保護者の皆さまのご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。

今年度もコロナ禍の状況での運動会ということで、当初より、競技種目やその数を減らすなどの工夫をしまっていました。さらに、緊急事態宣言下での実施となり、個人種目をカットして時間短縮したため、各学年の全員リレーと学年種目、色別リレーという内容になりました。その中で、生徒たちは、一つ一つの競技に全力で取り組んでおりました。また、入退場は、生徒席から直接、トラック内の整列場所への移動でしたが、司会の「入場！」の合図に、「オーッ!!」という元気な声で応じ、走って集合する姿からは、自分たちの運動会を盛り上げようという気持ちが伝わってきました。

全員リレーは、昨年1年間のブランクに加え、体育の授業以外での練習も思うようにできず、どの学年もバトンゾーンでの減点がありました。しかし、各学年の代表選手による色別リレーは、昼休みを使って練習を重ねた成果として減点もなく、バトンパスも含め素晴らしいパフォーマンスでした。また、学年種目は、1年生は「ソーシャルディスタンス玉入れ」（本校では昨年スポーツ大会で実施）、2、3年生は「大縄跳び」（2年はクラスを3分割、3年は2分割）でした。どのクラスでも、きっと何回も作戦会議を開き、どうしたら多く玉を入れられるか、どうしたら数多く飛べるか、などの話し合いを重ねてきたことと思います。まさしく、答えのない課題に対して向きあい、他者と協働して納得解を見つけたす取組であり、「協働的な学び」といえます。また、この取り組みにより、生徒たちは集団の一員として、学級に貢献したと捉えています。



二中では、去年のスポーツ大会、そして今年の運動会でも、全学年が一緒に行うことを選択してきました。行事において、全学年が合同で行うことには大きな意義があると考えます。運動会では、生徒がそれぞれの係を分担し、生徒たちの手で運営を行いました。その際、3年生がリーダーとして、1、2年生を引っ張り活躍しました。また閉会式も含め、競技など、運動会のそれぞれの場面で、言葉ではなく態度で「運動会はこうあるべき！」という姿を見せてくれました。それが証拠に、開会式の集合より、閉会式の集合の方が、掛け声も大きく、学校全体で取り組む行事という印象を強くもちました。



学校行事は、生徒たちの様々な資質・能力を育成するうえでとても大きな役割を果たしています。今回の運動会においても、二中の生徒たちは、個人として、集団として、大きく成長したことを実感します。今後も、機会を捉え、生徒たちが、良き社会人となるように育成してまいります。よろしく、ご協力・ご支援ください。

## Chromebook の持ち帰りについて

現在、小金井市では、文部科学省のGIGA スクール構想に基づく一人一台端末の導入がなされ、Chromebook が生徒に配られています。授業を始めとする学校活動の中で、すでに生徒たちは Chromebook を活用しています。ご家庭でも話題になっているのではないのでしょうか。



これまでの授業で用いた例として、総合的な学習の時間等で気になった単語や画像の検索、教科授業でスライド機能を使っでの発表、まなびポケット内にあるスクールタクト等のアプリケーションを用いて意見や画面を共有した協働的な学び、などの取組が挙げられます。

この度、小金井市より、以下の2点について依頼がありました。

- ① Chromebook の家庭への持ち帰り体験（保護者の皆様にも端末の確認をしていただく）
- ② 家庭でのネットワーク環境についてのアンケート実施

①に関しては、「Chromebook 貸し出し確認書」、「『Chromebook 使い方ルール』について」、「『Chromebook 持ち帰りルール』について」の3枚の文書を本日生徒に配布しております。「貸し出し確認書」の提出（21日月曜日まで）を踏まえて、来週水曜日（23日）から金曜日（25日）の期間＜授業での活用に支障がない定期考査期間中＞において、ご家庭に Chromebook を持ち帰ることとします。Chromebook 内には、学習用コンテンツが多数使えるようにインストールされております。各教科の練習問題等も体験・利用が出来ますので、この機会にご家庭でもご覧いただけますと幸いです。また、小金井市子ども家庭部児童青少年課より、生徒向けに小金井市子どもの権利に関する条例に基づく「子どもの権利救済窓口設置に関するアンケート」への協力依頼が来ております。23日に生徒向けプリントを配布する予定です。



②に関しては、保護者の皆様にご回答いただく形式となっておりますので、本日、学校連絡メールにて、Google Forms 上において回答ができるよう、アドレスを配信させていただきました。25日までのご回答をよろしくお願い致します。

## 部活動の再開と3年生の活動に寄せて 副校長 武内 亮

緊急事態宣言が発令され続けていますが、部活動が実施されています。現在は活動日や活動内容に制限はありますが、感染症対策に万全を期す形で部活動の練習や大会が行われています。

昨年度、例年ならあるはずの大会やコンクール等が何もない、小金井市やブロック内での代替大会や練習試合で最後に試合をして引退、という部活動も多かったことは、2・3年生の生徒の皆さんは知っていると思います。そんな中で、すでに選手権大会敗退となった部活動もあります。「もっと時間をかけて練習したかった」という人もいるでしょう。また、これから大会なのに「練習が間に合わない」「完成度が高まらない」など、部活動をしている皆さんにとっては不満や不安もあるでしょう。

そんな皆さんに一つご紹介したいものがあります。ソフトボール日本代表の上野由岐子選手が、インターハイ優勝を目標として猛練習していたのに、大会自体がなくなってしまった母校の部活動に送った、色紙の話です。以下の言葉に上野選手が込めた意味はどのようなものでしょうか。

「ひとにはできることと できないことがある  
できないことをなげくより できるひとをうらやむより  
できることを精一杯 できることに感謝しながら」